



インスタレーションビュー「ゆめのいたみをわかちあう」(右)
油彩・キャンバス
362×420cm
2012年



インスタレーションビュー「聴嵐」
油彩・キャンバス
481×851cm
2012年

屋外に絵をおくことを想定し制作したというより、制作過程の大部分が屋外だったので、屋外に展示することはごく自然なことであった。屋外におかれた作品は、時間のうつろいや気候や天気の変化、その刻々と変わる状況が人々の生活に似ていると感じる。過酷な状況は物理的に作品にダメージを与える。しかしそのような日々を作品とともに封印する。

与えられた状況を受け入れること。自然なかたちで提示すること。その意味を問うこと。そしてそれが今回の作品の命ともいえる。ありのままの姿と思える。作品自身もそれをよしとする気配を持っている。

いつもずっとは輝けない。そのうつろいに見る側とつくる側を、作品がインタラクティブにつないでいく。瞬間の輝きを求め、その一刻一刻を刻んだ作品は、ようやく眠りにつくために、屋内に運ばれる。安らぎの住処へ。また新たな姿を作り出すために。

(二〇二二年度特別研究制作研究費助成)

そらのみず―東島毅展
奈良町現代美術館ギャラリー(岡出)
二〇二二年七月二日(土)〜八月二六日(日)